

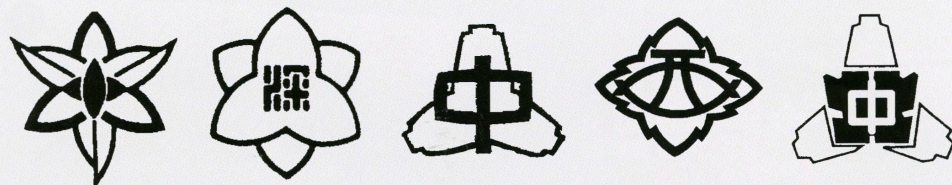
全部わかるかな？校章あてクイズ！

城陽市内の10小学校、5中学校の校章をあてよう！

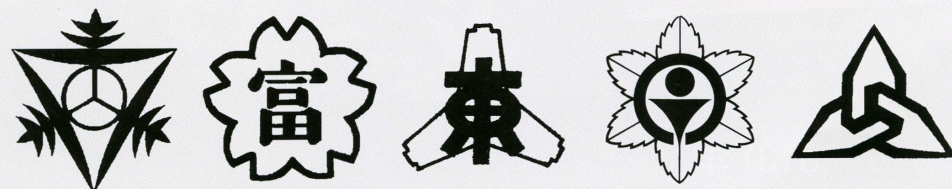
それぞれの校章の下のカッコに校名を入れてね！（特別展をみて答え合わせしてね）



① () ② () ③ () ④ () ⑤ ()



⑥ () ⑦ () ⑧ () ⑨ () ⑩ ()



⑪ () ⑫ () ⑬ () ⑭ () ⑮ ()

どの小学校かな？校舎あてクイズ！

下の昔の写真が寺田小学校、富野小学校、久津川小学校、青谷小学校のうち、どの小学校かをあててね！



① () ② () ③ () ④ ()

特別展示室より

明治5(1872)年、明治新政府のもとで学制が發布され、城陽市域の各村にも学校建設の機運が高まり、翌明治6(1873)年4月に寺田小学校、10月に富野小学校が設立されました。

今年は城陽市域に近代教育制度の学校が誕生して140年となるのを記念し、夏季特別展では城陽市域の学校のあゆみと、近世の寺子屋に始まる学びの歴史を振り返ります。



昭和16(1941)年 教室での箱庭作り 寺田国民学校

常設展示室より

城陽の歴史と文化財を展示している常設展示室では、時代ごとに様々な文化財を展示しています。近世コーナーでは古文書を展示しており、紙史料の劣化を防ぐため、年に数回展示史料の入れ替えをおこなっています。今年度は新収蔵された史料を中心に、近年新たに寄贈された貴重な古文書を展示しています。

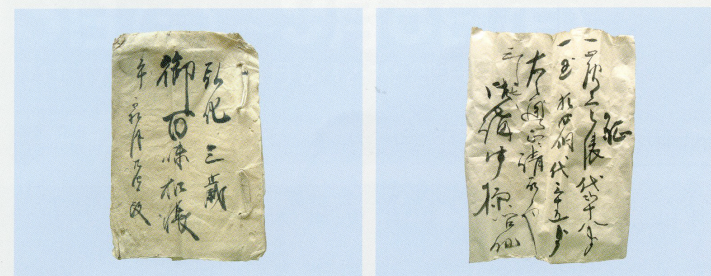
城陽市域では、江戸時代以降、さまざまな「講」と呼ばれるグループが作られました。伊勢講、愛宕講、二月講、日待講などと呼ばれるものです。それぞれの信仰する神仏をおまつりする講のほか、同業者の親睦を兼ねた団体組織も講と呼ばれました。

現在も寄合を続けられているところもありますが、近年は解散される講が増えてきました。その際、講でお持ちの古文書を資料館に寄贈される機会が増えています。

講の結成以降、講員の方々が持ち回りで大切にされてきた古文書は、文化年間(1804～1817)のものや、古いものでは正徳年間(1711～1715)の年号の彫られた銅板などがあります。これらの古文書を読み解くと、その当時の物価、寄合に集まった人数、どのようなものを食べていたのかなどがわかります。

写真①の文書は、弘化3年(1846)に寺田村の愛宕講が御百味(ひやくみ)をお供えた時の控え帳です。百味とは、種々の美味や珍味を仏前に供えることを言いますが、このときはお金や醤油、揚げ豆腐、紙、炭、酒、みりんなどを持ち寄ったと記されています。写真②は、年は不明ですが3月7日に炭などを購入した時の領収証で、あて先は御講中様となっています。どちらも、講での寄合のために準備したものでしょう。

他にもたくさんの古文書を展示していますので、資料館にお越しの際は、ぜひ常設展示室にもお立ち寄りください。



①

②

(①②ともに寺田北東西愛宕講文書)

校舎あてクイズの答え ①久津川小(昭和34年) ②青谷小(昭和12年) ③寺田小(昭和12年) ④富野小(昭和17年) 校舎あてクイズの答え ①久世小 ②寺田小 ③南城陽中 ④西城陽中 ⑤古川小 ⑥寺田南小 ⑦深谷小 ⑧城陽中 ⑨寺田西小 ⑩北城陽中 ⑪青谷小 ⑫富野小 ⑬東城陽中 ⑭今池小 ⑮久津川小